【別紙】　令和4年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会　評価結果一覧

普及所等組織名： 評価課題名	取り組みの概要	点数	結果	外部評価委員からの主な意見
鳥　取： 国府ブドウ産地の再興 ～「4000万円アクションプラン」の策定・実行に向けた活動支援～	国府果実部ブドウ部は、ピオーネを中心としたブドウ産地である。高齢化や施設の老朽化などで販売額や面積などが減少し、産地力が縮小してきた。 そこで、令和3年3月、産地再興を目的に「国府支店果実部4000万アクションプラン」を作成した。 普及所は生産部やJA等と連携しながらプラン目標を実現するための具体的な活動について支援を行った。	17.7	◎	・高齢化・病気・事故等、何があるか先行き不透明な時代「BCP」の作成は個人の経営にとっても生産部全体とっても必要なことと思う。 ・生産物の産地の評価を高めるには全体としての規格の統一・高品質が求められているのでさらなるブランド化にご尽力下さい。 ・現状の個選共販から共選共販への移行が必要なのでは。 ・対策はプラン項目への反映を検討するのではなく早く進める必要がある。
八　頭： 和牛飼育農家の生産技術改善による経営安定化 ～子牛育成技術の向上のために～	東部（いなば農協管内）は、「気高」号を産出した地域で、古くから和牛の産地である。 近年、繁殖農家の規模拡大や繁殖肥育一貫経営化及び酪農家から繁殖農家への経営転換等が進みつつあるが、東部地区の子牛市場への出荷体重は県平均以下であり、個体のばらつきが大きいとの評価だった。 そこで、令和2年4月より子牛哺育時期やセリ出荷時に、子牛全頭についての発育状況を調査し、飼育管理の改善指導を行った。	17.1	◎	・子牛の飼育環境は栄養管理以外の様々な要因があり、総合的に改善する必要がある。対象農家を増やし、データの蓄積を重ねて欲しい。 ・以前からの評価がいまいちなら、以前の取組の反省があってもいいのかなと感じました。 ・胸囲を計測して分かりやすい数字を出すことはとても大事と感じた。 ・全戸が改善に取組めるよう、説得力のある数字の積み重ねが必要と感じました。
倉　吉： 倉吉西瓜の産地強化・発展支援	倉吉西瓜生産部会は令和2年度に「倉吉西瓜産地強化・加速化プラン」を策定し、「新規就農者の確保」「担い手の育成」「優良農地の継承」「収益性の向上」「ブランド力の向上」の5項目を重点課題として、産地のさらなる発展に取り組んでいる。 普及所は、プラン目標である販売額12億円や、新規就農者確保（R3～7の5年間に20名）等を実現するため、技術の見える化等、様々な活動を支援した。	19.4	◎	・西瓜の販売単価が高く、追い風が吹いており、更に新規就農を増やす効果的なPRを進めて頂きたい。 ・スイカは重量がありどうしても高齢者には負担となって今後生産者減が見込まれる。さらなる後継者の育成をお願いします。 ・ホームページやYoutube動画の活用について高く評価。 ・動画マニュアルの共有や農家間のつながりが活発になるような取組がすばらしい。
東　伯： 新規就農者の自立支援と農業青年組織の活動促進	就農相談が毎年30件程度あり、相談者の環境や農業に対する適性は様々である。新規就農者は将来の担い手になるだけでなく地域に溶け込み、地域を守ることも期待されている。また、西瓜やミニトマト生産部などで担い手不足に対する危機感が高まり、生産部主導で生産者の「確保」の機運が高まっている。 そこで、普及所は関係機関（生産部・町・農協など）と情報共有・役割分担しながら新規就農者の確保～就農準備～就農後まで切れ目なく支援する活動を行った。	16.7	◎	・倉吉西瓜生産部会の取組みを参考にして、PR活動や発信を続けていけば全国の方に興味をもってもらえるのでは。 ・新規就農が増えるよう積極的なPRをして頂きたい。 ・新規就農が増加しており、他への波及が期待できる。 ・新規就農者は大きな夢を持って向かうが数年のうちに現実との乖離によりリタイヤする事例を多く見てきた。夢で終わらないような支援をお願いしたい。 ・田舎暮らしの良さ、子育て環境等も含めてPRし、就農希望者を募るといいと思いました。 ・技術支援、地域での仲間づくり等、多くの課題があると思いますがぜひ継続してください。
西　部： 大規模水田経営体の経営発展 ～（株）みのりのファームの取組事例～	農業者の高齢化や減少にともない、担い手水田農家に水田が集まりつつあるが、田植作業の適期や、水稲の苗づくり必要な育苗ハウスにも限度があることが課題であった。 「乾田直播栽培」は限られた作業労力の中で、育苗施設・保有機械を有効活用でき、かつ新たな投資が不要な栽培技術として期待されているが、管内に取組み事例が無かった。 そこで、普及所は実証ほを設置しながら「乾田直播栽培」についての技術指導・経営評価を行い、大規模水田経営体の経営発展を目指した支援活動を行った。	17.1	◎	・数少ない県内の乾直栽培取り組み農家であり、横のつながりを設けて安定生産につなげて頂きたい。 ・直播栽培の提案で規模拡大を実現できた成果を今後広く普及することが今後の課題と思いました。 ・投資を押さえ、省力化により大規模経営をなりたたせる方策で、スマート農業と合わせて他地域の経営体との情報交換波及が期待される。 ・乾田直播は低コスト(労力改善）と思うが、技術導入後の面積があまり増加していないと思う。雑草問題等、今後の技術改良をお願いしたい。
大山支所： 大山果実部の新規就農者の育成確保と園地継承 ～研修生への就農支援を通じた後継者確保～	大山町では、町独自のアグリマイスター事業（平成26年度から）と地域おこし協力隊（農業分野）の制度を活用して研修生を受け入れている。 しかし、研修内容はほぼ受入農家に任せた状況で、研修＝就農という形にはなっていない。 そこで、普及所は研修生本人の意向を確認しながら、町・受入れ農家(研修・継承先）とも連携しながら、就農に向けた研修会の開催や助言等の支援を行った。	15.9	○	・新規就農者は夢や希望がある。でも現実はまだわからない。就農者も農業をする覚悟をもち、普及側にもその覚悟を支える覚悟を持つこと。 地域おこし協力隊が梨農家で研修中の中での普及活動、現実(経営や営農規模など）を教えられるいいチャンス。
日　野： 日南トマトの産地強化 ～集落営農法人の野菜栽培における女性活躍推進～	日南町は準高冷地の特性を活かした県内最大の夏秋どりトマト産地であるが、過疎・高齢化が進みトマト生産者が減少しており、日南町では農業研修生制度も行なっている（H21）が、近年は外部からの就農希望者も少ない。 その一方で、水田農業維持を目的に設立された集落営農法人では高収益野菜(トマト）を経営に取り込む事例が出ており地域の人材を活かした経営発展が望まれた。 普及所は地域の人材(女性・高齢者）を対象として技術指導や女性を対象とした細やかな対応を行なう等、経営安定化を目指した支援活動を行った。	17.7	◎	・法人の労働力確保にとどまらず将来の経営者の確保育成につながるよう期待しています。 ・担い手を目指す若手、農業経営体への就職を希望する若手は雇用条件と共に先進的取組、付加価値の高いサービスに大きく興味を持たれると思います。 ・地元の学生さんとの連携が素晴らしいと思いました。経済面での課題もあるでしょうがスマート農業の推進にも注力してもらいたいと思います。

【点数結果の凡例】
◎　16点以上　：優れた取り組みである
○　12点以上16点未満　：妥当な取り組みである
△　12点未満　：成果に乏しい取り組みである